

第6学年 学級活動（2）指導案

日 時：令和7年11月26日（水）5校時

場 所：6年1組教室

対 象：第6学年1組22名（男子11名，女子11名）

指導者：溝口由香利（教諭）

講 師：中島 昌子（山梨がんピアサポート希望の会）

1 題材名 「健康な生活 ～がん患者の経験を聞いて健康の大切さを伝えよう～」

内 容 （2）「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級は、計22名（情緒学級在籍児童1名含）の児童が在籍している。全体として元気で明るく、日々の学校生活に意欲的に取り組んでいる。児童同士で声を掛け合いながら、よりよい生活を目指そうとする姿勢が見られる。また、グループや全体の場で自分の意見を伝えたり、相手の意見を受け止めたりしながら、協働的に課題解決に取り組む力も高まりつつある。一方で、言葉遣いに課題が見られる場面もあり、相手の立場に配慮した表現力を高める必要がある。

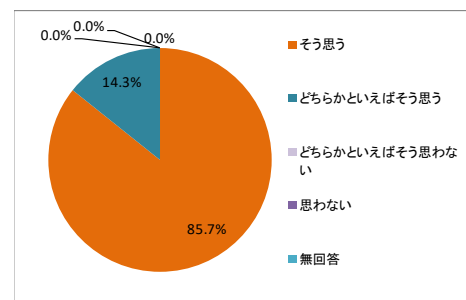
本授業に関連して、健康管理や病気予防に関する基本的な知識は身に付いているものの、それらを日常生活に十分に生かしている児童は少なく、健康への意識や実践には個人差が見られる。休み時間には、屋外で活発に運動する児童もいれば、室内で静かに過ごすことを好む児童もいる。中には、運動の必要性を理解していても、積極的に体を動かすことに抵抗を感じている児童もいる。また、睡眠や食事などの生活習慣に課題を抱えている児童もおり、日常的な声掛けや指導を行っている。

事前アンケート結果から、多くの児童が「長生きをするために、健康な体づくりに取り組みたい」「身近な人が健康であってほしい」「自分や身近な人がずっと健康であってほしい」と回答しており、自分や身近な人がずっと健康であってほしいという思いをもっていることがわかった。一方で、がんをはじめとする生活習慣病について、「がんは日本人の死因の第2位である」といった誤解が見られ、がんに関する正しい理解が十分に浸透していないことが伺えた。

【事前アンケート結果の一部抜粋】①

j 家族や身近な人が健康であってほしいと思う（事業実施前）

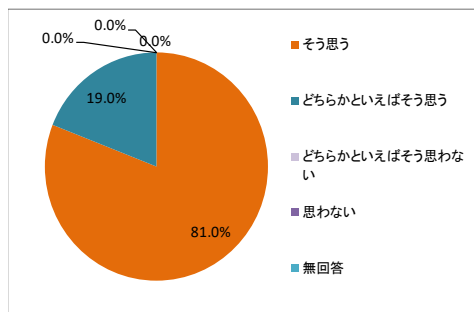
	(単位：人)
そう思う	18
どちらかといえばそう思う	3
どちらかといえばそう思わない	0
思わない	0
無回答	0



【事前アンケート結果の一部抜粋】②

k 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施前）

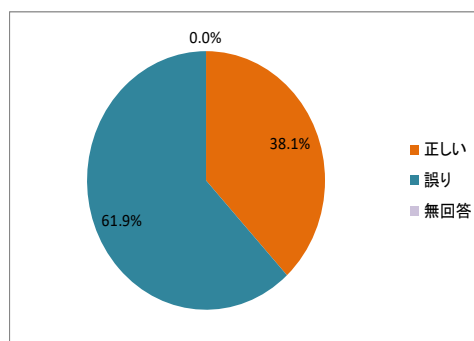
	(単位：人)
そう思う	17
どちらかといえばそう思う	4
どちらかといえばそう思わない	0
思わない	0
無回答	0



【事前アンケート結果の一部抜粋】③

c がんは日本人の死因の第2位である（事業実施前）

	(単位：人)
正しい	8
誤り	13
無回答	0



(2) 題材設定の理由

近年、がんは日本人の死因の第1位となっており、誰にとっても身近な病気である。自分自身や家族ががんになる可能性もあり、決して他人事ではない。また、がん教育の目標は「がんについて正しく理解することができるようにする」と、「健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする」が挙げられている。

事前に実施したアンケートでは、多くの児童が「将来は自分も家族も健康でいたい」と考えていたが、がんに関する理解には誤りが見られた。このアンケートは、体育科（保健領域）「病気の予防」の学習前に行ったものである。そのため、本授業を行う前に、体育科（保健領域）「病気の予防」の学習において、養護教諭がT2として参画し、がんについて正しく理解できるようにする。

さらに、本授業では、がんに関する正しい知識を身に付けた上で、がんを経験した方から直接話を聞く機会を設ける。実際の体験を聞くことを通して、がんの予防や検診の重要性を身近な健康課題として捉え、自分や家族、地域の人々の健康について主体的に考えることができるようにする。また、学んだことを身近な人に啓発・発信する（伝える）という学習活動を通じて、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度の育成を図りたいと考える。

(3) 指導観

①事前指導と事後指導

事前指導では、児童が家族に対してがんに関するインタビューを実施する。家族の考えを聞くことにより、児童ががんをより「自分ごと」として捉え、将来に向けて家族と共に考えていく態度を養うことをねらいとしている。家庭と学校の学習を結び付けることは、児童の主体性を高めるきっかけとなることが期待される。

事後指導では、次時に本時で意思決定した実践内容を具現化する時間を設ける。児童ががんを知ることの大切さを啓発したり、学んだことや考えたことを家族や地域の人々に発信したりする活動を通して、命の尊さや健康への意識を高めることを目指す。これにより、児童が日常生活の中でより良い健康行動を自ら選択・実行できるようにする。

さらに、事後指導の二つ目として、体育科（保健領域）「病気の予防」の「地域のさまざまな

保健活動」や、道徳科などの学習と関連付けることで、知識の習得にとどまらず、他者を思いやる心や社会の一員として行動しようとする意識の育成につなげていきたいと考えている。

②外部講師との連携

中島さんは、乳がんの治療を経験し、現在はがんに不安を抱える方々に寄り添うサポート活動や、がんをより身近に感じてもらうための啓発活動を行っている方である。本授業では、中島さんに、患者としての気持ちや家族の言葉、現在の活動を通して感じている悩みなどを語っていただく。児童がその話を聞くことで、自分にできることを考えるきっかけとなる内容としたい。

また、話し合いの時間には、中島さんから児童に助言をいただき、がんについてより身近に捉えられるような展開を図る。これにより、児童の主体的な学びを促し、健康や命について「自分ごと」として考える力の育成につなげたい。

③主体性を育む展開と個別最適な学びに関わって

授業では、児童が自分の興味・関心や理解度に応じて、最適な実践方法を自ら選択できるような学習展開を目指す。教師が活動内容を一方的に限定するのではなく、「自分にできること」は多様な見方や考え方から広がっていくことを、児童自身が実感できるようにしたい。

さらに、話し合い活動では、自分と同じ考えをもつ仲間と意見を交わすことで、安心感や共感を得ながら思考を深めることができる。こうした対話を通して、児童が自らの意思で実践内容を決定する「自己決定力」を育む展開を目指す。

3 評価規準

観 点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評 価 規 準	日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	自己や身近な人の生活上の課題に気付き、多様な意見を基に、自らの解決方法を意思決定し、実践している。	自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしていたりしている。

4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
アンケートに記入する	体育科（保健領域）「病気の予防」を実施する前に、がんについてのアンケートを実施する。	アンケート記入や家族へのインタビューを通して、がんに関する課題を考えることができる。 【思考・判断・表現】 〔・アンケート ・インタビューシート〕
家族にインタビューをする	児童が、がんに関するインタビューを、家族に実施することによって、家庭と学習を結びつけるような導入と、事後指導に活用できるようにする。	

5 本時のねらい

自身や周囲の人の生活を振り返ったり、がんについての体験談を聞いたりすることを通して、家族や周囲の人に対し、現在及び将来に向けてがんの予防などを啓発するための方法を意思決定できるようにする。

6 本時の展開

時間	児童の活動 発問	指導上の留意点		資料・ 教材	評価方法
		T1（学級担任）	T2（外部講師）		
導入 つかむ 3分	1 がんについての既習事項を確認する。	○これまでの学習を振り返り、事前アンケートの結果や家族へのインタビュー内容を本時の課題につなげるようにする。 ○外部講師の紹介を丁寧に行い、児童が安心して話を聞ける雰囲気をつくる。		アンケート結果	
	2 学習課題を知る。				
体験談を聞いて、家族や地域の人に「がんについて」伝える方法を考えよう。					
展開 さぐる	3 体験談を聞く。	○講師にインタビューしながら体験談を引き出し、児童が興味や関心をもって聞けるよう進める。	○体験談を話す際に、 ・わかりやすい言葉で伝えるようにする。 ・「がん＝死」という誤解を与えないよう、治療や回復の可能性も伝え		

<p>15分</p> <p>見つける</p> <p>10分</p>	<p>4 話し合う。</p> <p>問① 全体での話し合い</p> <p>問② 小グループでの話し合い</p>	<p>○体験談の要点を板書し，児童が内容を整理しながら理解できるようにする。</p> <p>○情報の発信や啓発に興味・関心が高められるよう話し合いを促し，互いの考えを尊重する雰囲気づくりができるようにする。</p> <p>○啓発や情報発信の対象に応じて小グループに分かれ，児童が伝える内容や方法を話し合えるよう支援する。</p> <p>・「だれに」「何を」「どうやって」の項目に分けたホワイトボードを用意し，話し合う視点をしぼって話が進められるように工夫する。</p> <p>・意見をしぼるのではなく，自己決定に向けて，たくさんのアイディアが出るような声掛けをする。</p>	<p>るようにする。</p> <p>・気持ちを正直に，乗り越えた経験や支えになったことも伝えるようにする。</p> <p>○机間巡視する中で，</p> <p>・話しかけやすい「聞く姿勢」を大切にする。</p> <p>・「いい質問だね」「聞いてくれてありがとう」等，質問を歓迎する肯定的な言葉を返せるようにする。</p>	<p>ホワイトボード</p>	<p>◆課題解決に向けて，粘り強く取り組んでいる。【態】（観察）</p>
<p>まとめ</p> <p>12分</p> <p>決める</p>	<p>5 グループの考えを聞いて，個人で意思決定する。</p> <p>・授業の感想を書く。</p>	<p>○他のグループの発表を聞いて多様な考えに触れ，自分の考えを見直す時間を確保する。</p> <p>・視点や振り返り方法を示し，児童の主体的な意志決定を支援する。</p> <p>・次時の活動について説明し，児童が見通しをもって意思決定ができるようにする。</p>	<p>○授業の感想を共有し，がん予防の重要性や児童が安心できるメッセージを伝えるようにする。</p>	<p>ワークシート オクリンク</p>	<p>◆聞いたことを振り返りながら，発信する方法を決めている。【思・判・表】（ワークシート・観察）</p>

板書計画

め 経験談を聞いて、家族や地域の人に「がんについて」伝える方法を考えよ

がんの経験
 検診・早期発見
 手術・悪性
 医師との関係
 周りのサポート

活動の悩み
 もっと知ってもらいたい。
 患者さんは隠したい気持ちがある。
 広めてほしい。

気持ち
 心のグラフ

伝える方法を考えよう。

誰に 家族・地域・友達

がんの何を
 検診の大切さ・早期発見・治療

どうやって ポスター・チラシ

スクリーン

7 事後の指導（学級活動）

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> アンケートを記入する。 発信や啓発の資料を作成する。 ワークシートを用いて、自分のためためあてや実践方法について、振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> がんや健康について、家族や地域の方とともに考えていけるように助言する。 必要があれば、中島さんに質問事項を送り、回答をいただく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の生活上の課題の改善に向けて、学んだことや、話し合ったことをもとに、実践している。 【知識・技能】 （発言・成果物）

8 事前・事後 ワークシート

6年生がん教育ワークシート

名前:

【家族へのインタビュー：学習前】

①「がん」について知っていることを教えてください。
 ・
 ・
 ・

【家族へのインタビュー：学習後】

②学習したことを聞いて、どんな感想をもちましたか。
 ・
 ・
 ・

9 本時ワークシート

6年生がん教育ワークシート P.2

名前

め 経験談を聞いて、家族や地域の人に「がんについて」伝える方法を考えよう。

① **【だれに】** 伝えたいですか。 に伝えたい。
(地域の方々・家族・学校の他の学年 など)

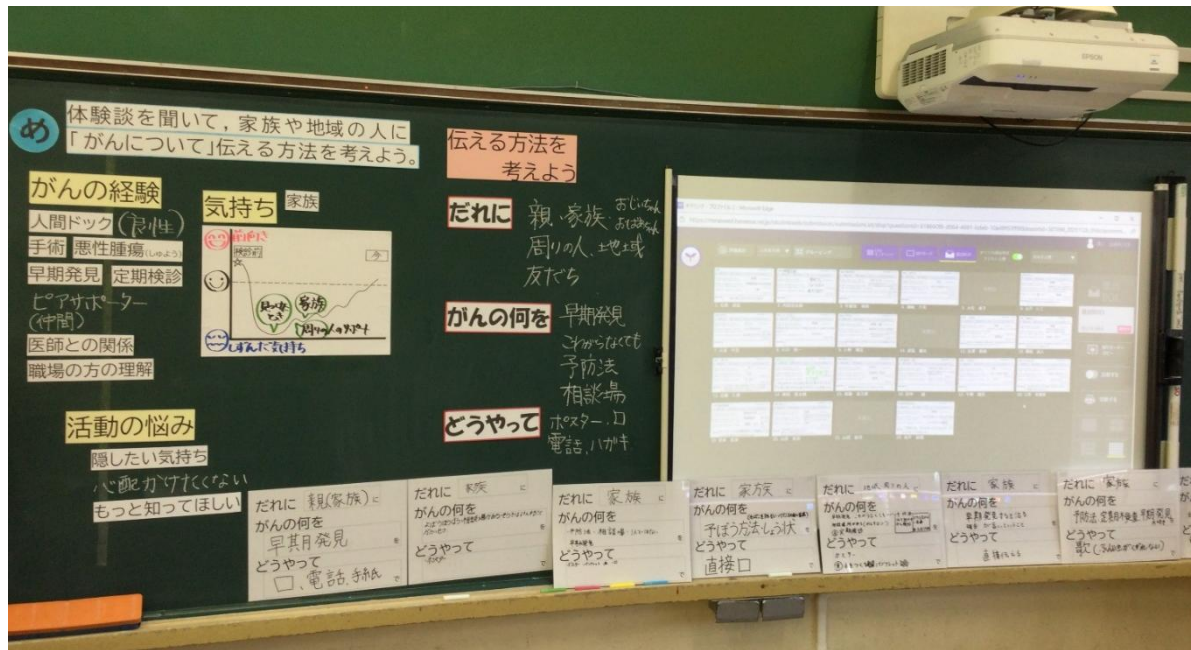
② **【がんの何を】** 伝えたいですか。 を伝えたい。
(検診の大切さ・早期発見・治療などいくつでも)

③ **【どうやって】** 伝えたいですか。 で伝えたい。

【授業の感想】

10 授業の実際

(1) 当日の板書



(2) 児童のワークシート

名前 6年生がん教育ワークシート P.2

め 経験談を聞いて、家族や地域の人に「がんについて」伝える方法を考えよう。

①【だれに】伝えたいですか。 に伝えたい。
(地域の方々・家族・学校の他の学年 など)

②【がんの何を】伝えたいですか。 を伝えたい。
(検診の大切さ・早期発見・治療などいくつでも)

③【どうやって】伝えたいですか。 で伝えたい。

【授業の感想】

名前 6年生がん教育ワークシート P.2

め 経験談を聞いて、家族や地域の人に「がんについて」伝える方法を考えよう。

①【だれに】伝えたいですか。 に伝えたい。
(地域の方々・家族・学校の他の学年 など)

②【がんの何を】伝えたいですか。 を伝えたい。
(検診の大切さ・早期発見・治療などいくつでも)

③【どうやって】伝えたいですか。 で伝えたい。

【授業の感想】 今日話を聞いてがんは誰にでもなる病気だし、早期発見をすることでがんがまだ小さい状態で見つかることがわかった。

名前 6年生がん教育ワークシート P.2

め 経験談を聞いて、家族や地域の人に「がんについて」伝える方法を考えよう。

①【だれに】伝えたいですか。 に伝えたい。
(地域の方々・家族・学校の他の学年 など)

②【がんの何を】伝えたいですか。 を伝えたい。
(検診の大切さ・早期発見・治療などいくつでも)

③【どうやって】伝えたいですか。 で伝えたい。
(いくつでも)

【授業の感想】

名前 6年生がん教育ワークシート P.2

め 経験談を聞いて、家族や地域の人に「がんについて」伝える方法を考えよう。

①【だれに】伝えたいですか。 に伝えたい。
(地域の方々・家族・学校の他の学年 など)

②【がんの何を】伝えたいですか。 を伝えたい。
(検診の大切さ・早期発見・治療などいくつでも)

③【どうやって】伝えたいですか。 で伝えたい。

【授業の感想】

Ⅱ 実践のまとめ

【児童に対する事前・事後アンケート結果について】

質問1 がんの学習の重要性について	実施前	実施後	増減
がんの学習は、健康な生活をおくるために重要だ（そう思う）	85.7%	100%	+14.3
がんの学習は、健康な生活をおくるために役に立つ（そう思う）	90.5%	95.2%	+4.7
質問2 がんという病気について	実施前	実施後	増減
がんは誰もがかかる可能性のある病気である（○）	90.5%	100%	+9.5
がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある（○）	95.2%	100%	+4.8
がんは日本人の死因第2位である（×）	38.1%	90.5%	+52.4
たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある（○）	90.5%	100%	+9.5
早期発見すれば、がんは治りやすい（○）	76.2%	100%	+23.8
体の調子がいい場合は、定期的に検診を受けなくてもよい。（×）	100%	100%	±0
がんの治療法には手術治療しかない（×）	76.2%	100%	+23.8
がんの痛みは我慢するしかない（×）	95.2%	100%	+4.8
質問3 がんへの考えと共生社会について	実施前	実施後	増減
自分はがんにならないと思う（そう思わない）	33.3%	42.9%	+9.6
将来、たばこは吸わないでいようと思う（そう思う）	76.2%	90.5%	+14.3
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくり組もうと思う（そう思う）	71.4%	90.5%	+19.1
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（そう思う）	50.0%	81.0%	+30
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである（そう思わない）	9.5%	9.5%	±0
がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う）	4.8%	57.1%	+52.3
がん患者を支える仕事に興味がある（そう思う）	57.1%	76.2%	+19.1
がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい（そう思う）	57.1%	76.2%	+19.1
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（そう思う）	52.6%	85.7%	+33.1
家族や身近な人が健康であってほしいと思う（そう思う）	85.7%	100%	+14.3
長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	81.0%	100%	+19

【アンケート結果の考察】

質問1「がんの学習の重要性」については、学習前から90.5%の児童が「重要である」と回答していたが、授業後には全児童が「重要である」と回答した。また、質問2「がんという病気について」の項目では、「がんは日本人の死因第2位である(×)」の正答率が52.4ポイント増加し、「早期発見すれば、がんは治りやすい(○)」の正答率も23.8ポイント増加した。これらの結果から、今回の授業を通して児童が健康と命の大切さについて主体的に考え、がんについて正しく知る必要性や、自分にもできる取り組みがあることへの理解が深まったと考えられる。

さらに、体育科(保健領域)「病気の予防」で学んだ内容に加え、講師による経験談を聞いたことが、児童のがんに関する知識をより深めることにつながった。そのため、本時のねらいである「現在および将来に向けて、がん予防の啓発方法について意思決定する力を育てる」ことに対して、一定の教育的効果が得られたと評価できる。

本授業では、児童が要点を捉えて聞くことができるよう、インタビュー形式を取り入れて講師の話の構成を工夫した。質問3「がんになっても生活の質を高めることができる」や「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」などの項目の回答率が大きく向上したことから、講師自身の生き方や活動内容が児童の心に響き、周囲の人への啓発や発信につなげようとする態度の育成に寄与したと考察できる。

【「がん教育推進校公開授業」アンケート結果】

対象者：推進連絡会委員・外部講師1名、養護教諭3名

←達成できた

達成できなかった→

	5	4	3	2	1
本時の目標は達成できたか	1名	3名	0名	0名	0名
外部講師の活用は効果的だったか	2名	2名	0名	0名	0名
学校におけるがん教育を進めるうえで、本日の授業はどうだったか	2名	2名	0名	0名	0名

○本時の目標は達成できたか(理由)

- ・がんの何を伝えたい?という先生の問いに、なかなか自分たちの言葉や考えが出ず、先生の上手な誘導で出てきたので、外部講師のお話を聞いて、自分なら何を伝えたいのかが、自分の言葉で出るとさらに良かったと思いました。がんがよくわからない子どもたちから、何を伝えたいかを出すには、がんを自分なりにもっともっと理解する必要があると思います。(養護教諭)
- ・子どもたちは、よく外部講師のがんについての体験談を聴いていた。そのことを反映し、家族や周囲の人に対してがん予防を啓発するための方法を、グループ内や個人で考えていることができていた。(養護教諭)
- ・がんについて怖がりすぎずに正しく理解する、早期発見の大切さなど、中島さんが伝えたことをふまえて考えられていたため良かったと思う。(養護教諭)
- ・溝口先生の授業内容がわかりやすく、がんの啓発をするための意思決定という目的が達成できていた。(推進連絡会委員・外部講師)

○外部講師の活用は効果的だったか（理由）

- ・話がとてもわかりやすかったです。たくさん伝える経験がおありなのだと感じました。子どもたちも真剣にきいていました。（養護教諭）
- ・経験談やそのときの気持ち、現在の活動の悩みを実際に聴くことで自分が誰に・何を・どんなふうに伝えるかを具体的に考えることができた。（養護教諭）
- ・実際にがんを経験した方の話を聞けるのは、がんを身近に感じる良い方法だと思う。（養護教諭）

○学校におけるがん教育を進めるうえで、本日の授業はどうだったか（理由）

- ・講演会形式も勉強になるでしょうし、今日のようにゲストティーチャーが話し、子どもたちがグループ討議で深めて、養護教諭からの専門的な病気や予防の話があり、担任の先生が全てを統合してくれる授業形式も、子どもたちの思考力を鍛える意味で良かったです。色々な先生が連携して、がんを子どもたちに考えさせる授業でとても良かったです。（養護教諭）
- ・授業の構想を具体的にイメージができた。（養護教諭）
- ・自分事として考えられるような「ねらい」の設定、授業展開が難しいと感じた。（養護教諭）

○学校におけるがん教育をすすめるうえでの課題について（記述）

- ・養護教諭だけが大事だと思っても、全職員が同じように大事だと思っていないと、なかなか教育課程に入れてもらえないなど、がん教育は進みづらい。管理職の先生方がもっと大事な教育だと発信してくださると変わると思います。（養護教諭）
- ・児童や児童の家族等に罹患者がいることへの考慮（養護教諭）

○その他（気づいたこと・感想）

- ・体験談を聴いた後の児童の思ったこと、考えたこと等が聞きたかった。他者の考えを聴くことで後の活動に繋がれたらもっとよかったと感じた。（養護教諭）
- ・今回の授業では、家族にインタビューをしたり、実体験を聞いたりすることで、がんをより身近に感じられたと思います。私自身、がん教育のねらいが何か曖昧でしたが、今後自分や周りの人が、がんになった場合どう行動したら良いかのかが知識として身につけられ、予防する行動につなげられることが、ねらいとなると思いました。ありがとうございました。（養護教諭）
- ・児童が誰に何を伝えたいのか、なぜそう思ったのか、感想を聞きたいと思いました。（養護教諭）

【授業検討会より】

- ・インタビュー形式だったため、今回の授業のねらいに即した話ができたとと思う。事前打ち合わせで、先生方のねらいに向けた気持ちが強いことが伝わってきた。児童の活動のヒントになるように、言葉を選びながら話した。自分の経験に加えて、活動についても話ができよかった。
(外部講師)
- ・主体性を育む授業だったと思う。小学生はストレートに考え言葉で表現する。そのため、その表現の仕方やアウトプットの仕方を学ぶいい機会となったのではないか。(推進連絡会委員)
- ・展開や板書が効果的な展開だった。講師の方の言葉を板書に残し、その後の児童の思考の場面に生かす方法や、講師の先生の言葉を心のバロメーターとして残すことで、気持ちの整理もできた。児童が考えやすい板書になっていた。(推進連絡会委員)
- ・インタビュー形式での講師の話が、児童の心にすっと落ちたと思う。この授業のことを、ぜひ家族に伝えてもらいたい。自分の言葉で伝えることで、さらにインプットされると思う。(推進連絡会委員)
- ・家族へのインタビュー結果で、がんについてあまり知らない印象があり、がん教育がもっと必要だと思った。市等の検診の啓発もしていけないと感じた。(推進連絡会委員)
- ・溝口先生が講師の方を紹介した瞬間から、児童の目が講師の方にくぎ付けになった。目の前にいる方の生の経験を聞けることは、児童にとって貴重な経験であることを再認識できた。がん教育は、講師から児童、児童から保護者や地域の人々へと広がっていく活動になると思った。
(指導主事)
- ・インタビュー形式を小学校で先生が行うことで、中学校に入ったら自分たちで進めることができる児童に成長するのではないかと思う。(指導主事)
- ・インタビュー中に、児童も巻き込みながら展開していくと、児童の声が反映されてさらに理解度があがるのではないかと思った。(指導主事)
- ・中島さんに児童から質問ができる時間があってもよかった。他の児童の感想や意見を聞いてから、話し合い活動に入るとさらに有意義な話し合いになったのではないかと思う。(指導主事)
- ・質問したいことを打ち込むなど、ICTを使った活動がもっとあってもよかった。(指導主事)
- ・最後の感想を書く場面で、以前の自分の考え方と変わった意見の色を変える等し、児童の気持ちや考えの変容が見られるとさらによかった。(指導主事)
- ・この活動を、保健だより等で家庭に伝えることで、さらに広がりのある授業になると思う。(指導主事)

【北杜市立泉小学校におけるがん教育について】

○ねらいと、ねらいに向けた教科横断的な学び

本時のねらいを「自身や周囲の人の生活を振り返ったり、がんについての体験談を聞いたりすることを通して、家族や周囲の人に対し、現在及び将来に向けてがんの予防などを啓発するための方法を意思決定できるようにする」と設定した。このねらいを達成するために、まず体育科（保健領域）「病気の予防」において、生活習慣病の一つとしてがんについて学習した。その学習を前提として、今回のがん教育の授業を位置付けた。

本授業は、学級活動（2）「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」のうち、「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」に該当する内容として実施した。児童は、講師による体験談や既習事項をもとに、がんの予防に関する情報を「自分ごと」として捉え、家族や地域の人々に向けて啓発する方法を考える学習に取り組んだ。

これらの活動を通して、児童が自身の健康的な生活を見直すとともに、家族や地域の人々とともに健康について考えを深め、社会参画へとつなげていく態度の育成を目指した。

○外部講師との連携について

今回講師をお願いした中島さんは、乳がんの治療経験をもち、現在はがんに不安を抱える人々に寄り添うサポート活動や、がんをより身近に感じられるようにするための啓発活動に取り組んでいる方である。また、児童と同じ地域に住む身近な存在であることから、児童ががんを「自分ごと」として捉え、家族や地域に向けてがんの正しい理解や、がんと向き合う人々への共感的理解を広めていくためにも、本授業に欠かせない講師である。

中島さんの紹介を行った際、児童は話に強い関心を示し、がんを患った際の体験談やそのときの思いに寄り添いながら、真剣に耳を傾けていた。次時では、チラシやポスターを作成し、中島さんの協力のもと地域に掲示する予定である。この取組により、児童の主体的な学びを促すとともに、健康や命の大切さを「自分ごと」として捉える力の育成につながることが期待される。

○学校教育活動の関連づけ

今回、本校では、これまで学級活動で位置づけていたがん教育に加え、体育科（保健領域）をはじめとする教科横断的なカリキュラム・マネジメントを行った。これにより、児童が自他の健康や命の大切さについて、多面的・多角的に学びを深められるような学習構造を整えることができた。今後も、児童が主体的に健康について考えを深められるよう、教育課程の在り方を継続して模索していく。

また、本校では第6学年に限らず、様々な場面で外部講師を活用している。今後も、児童が健康的な生活を「自分ごと」として捉えられるよう、学年を越えた学びのつながりを意識しながら、養護教諭との活動を進めていきたい。